

「日本を再生したい」という一心で新たな取り組みを続ける、IT業界の異端児に田原氏が会いに行った。その独創的な志とは？

金儲けが目的の起業も悪くはない。でも僕は、日本を世界に通用する新しい技術立国にしたい」という思いに、共感を覚えたんだよ

I Tのテクノロジで注目されているベンチャー企業という点、多くの人はどんな企業イメージを持つだろうか。出資者を募って事業規模を拡大し、将来的には上場を果たして莫大な創業者利益を得る。それは多くのIT企業が目指す成功の形であり、社会的に認知されるプロセスだと思われる。

ところが、卓越したITのテクノロジを持ちながら投資も募らず、上場も考えていないというベンチャーがあるんだね。「チームラボ」という名のその会社は、なぜ目の前にぶら下がっているかもしれない大金に手を伸ばさずとしないのか。

数多い他のIT企業とは一線を画する独特の経営姿勢に興味を抱き、僕はチームラボを率いる猪子寿之社長を訪ねることにした。

オフィスの受付に置かれているのは初期のファミコンで、コントローラーを操作して部署ごとの土管にキヤラクターを入れると、訪問先の電話がコールされる仕組みになって、

「ケージ」として販売することも事業の重要な柱となっている。

そのひとつが「自分の知らない自分の好きなモノを探す」ためのエンジン。マッピングセレクトウェアというんだけど、実際に自動車の販売サイトなどで使われているわけ。たとえばトヨタのクラウンしか知らない人が「クラウン」で検索すると、関連した嗜好性の車がビジュアルでマッピングされる。写真入りで「この車はどう？」こっちは車も面白いよ」と見せてくれる。

この検索エンジンなら、知っている単語がひとつでもあれば、自分の知らない世界をマウスひとつで無限に検索していきける。それを視覚化したエンジンは、世界でもチームラボだけの最先端技術なんだね。

趣味の世界だけじゃなくて、受験する学校や就職先の企業選びなんかで活用すれば、選択肢がものすごく広がってくると思う。

これだけじゃない。チームラボはヤフーやグーグルに対抗する日本発の検索エンジン「SAGOL(サグール)」を発表した。ここが面白い。いまネットの世界で新しい検索エンジンを引っさげて参入することは、ほとんどムリだと言われている。

そのムリを承知で猪子社長はあえて挑んでいるんだけど、その理由にこそチームラボの企業理念があるわけ。新しい技術立国、世界に通用するプレーヤーになって日本を再生する。そうしなければ日本は、どんどん貧乏な国になってしまうと言っているんだね。

猪子青年がこう考えるようになって



チームラボの社内に入るとまず目に入るのは、内線電話の代わりに使われているという初期のファミコン。コントローラーを手にする田原氏と猪子寿之社長

たのは、東大に入る直前のことで、それまでは何と逆玉の輿を狙って東大に入るつもりでいたと言った。つまり、大企業の創業家の娘婿となつて組織のトップになり、政治や行政ではなくマーケティングの面から日本を動かしていきたいと考えていた。そんな時に目にしたのが「新・電子立国」(1995年10月、96年6月・全9回)というNHKのドキュメンタリー番組だった。この番組を見て猪子社長はふたつの意味で大きなショックを受けたんだね。

この番組は、91年に放送された『電子立国日本の自叙伝』の続編として制作されたものだが、「新・電子立国」では日本の話が全然出てこ

ない。アメリカの話ばかりだ。このままでは日本の経済は滅んでしまう。猪子さんは、そう思った。

ライブドアが用いた企業の吸収合併にはなんの興味もない

日本は本来、技術をベースにしたサービスなりプロダクトで食べている国だと猪子社長は指摘する。しかし、「新・電子立国」はアメリカの話であつて、日本は電子立国ではなくなつていて。

現にパソコンのOSやらネットの検索エンジン、さらに様々な基本ソフトはほとんどがアメリカ製で、日本ではプレーヤー不在の状態が続いているんだね。これを10代の青年が

第3回 時代を動かす人や場所を徹底取材
田原総一郎が行く!
現場主義!

〈チームラボ株式会社〉
構成/伊藤慎也 撮影/関 幸貴 Design/Beach inc.

いる。こんな遊び心からもユニークな会社の雰囲気伝わってくるが、猪子社長に会って僕は、はつきり手応えを感じた。このチームラボという会社は間違いなく面白く、そして熱意に満ちている、と。

グーグルやヤフーを超える最先端技術を作りたい

チームラボはウェブ制作を受託して、数多くのサイトを立ち上げてきた。そのひとつが2006年6月にオープンし、「ウェブ・オブ・ザ・イヤー」の新人賞を受賞した産経新聞のサイト「イザ」。

このサイトの中では、チームラボが開発した独創的な技術が用いられていて、そのテクノロジをパッパ

本気で愛していた。

と同時に、猪子社長は番組の中で紹介されたインターネットに衝撃を受け、それまでの人生で最も興奮したという。権力も金もない市井の一般人が、世界中のあらゆる情報にアクセスできる。そして世界に向けて自由に情報が発信できる。

インターネットはそこまで自由な情報化社会を実現させる、人類が歴史上初めて手にしたメディアだと直感した。それなら体制側にある意味がないところか、逆に損になる。逆玉狙いで大企業に入るのには、江戸末期に徳川幕府に入るようなものだと

言うわけ。

そこで体制側から一番遠いところからベンチャーを立ち上げ、世界に通用する技術で技術立国を目指す。

実際に画面を見ながらチームラボが目指すべき姿をインタビューする。いままでない検索エンジン「サグール」に田原氏も興味を示す

